

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	目標	評価者	目標 指数%	後期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学びの力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイムの漢字の広場・計算道場(週それぞれ1回)で、基礎的な漢字・計算の定着を図る。	細呂木タイムの漢字の広場・計算道場(週それぞれ1回)の時間を確保している。	取組	教師	90	100	今年度も、細呂木タイムの時間を確保し、児童も意欲的に取り組むことができた。基礎的な漢字・計算力の定着に有効であった。	今までに引き続き、系統的に漢字や計算ドリルなどを計画・実施し、基礎・基本を徹底させていく。できないところは、家庭での自主学習で復習を促していく。	本校の親子読書の時組で、親子で本を読み、感想を書くことを実施しているが、人間性を育てるためには大変良い。大人でも文字離れが見られる。意欲的に取り組めるよう工夫してほしい。読む力の育成のためには、書かせることも併せてやる必要がある。感想文などは、子どもは嫌がる傾向が強いが、たまには強制的にさせることもあっていい。
				細呂木タイムの漢字の広場・計算道場で、基礎的な漢字・計算の定着を図っている。	取組	教師	90	100			
				細呂木タイムの漢字の広場・計算道場で、漢字や計算の練習に取り組んでいる。	成果	児童	80	93			
				学校は児童に、基礎的な漢字や計算の学習に取り組ませている。	満足度	保護者	80	90			
	②	活用力	生活を豊かにするために学んだこと(知識)を活かして使う	学んだこと(知識や技能)を知恵として生活の中で活かして使っているか 問うような場面設定ができています。	取組	教師	90	89	学んだことがどこに生きてくるのかを意識させるようにできた。	これまで通り、学習や普段の生活時間のどこに生かされているか意識して触れていく。	
				学んだこと(知識や技能)を生活の中で活かして使っている	成果	児童	80	93			
	③	自主的学び	既習学習を活用した課題の設定や、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行う。	既習学習を活用した課題の設定や、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行う。	取組	教師	90	100	対話的な授業を組み立てる必要がある。児童は家庭において自主学習の必要性を十分感じていないところがある。	公開授業を通して、児童の実態に応じた課題設定を行い、児童が主体的に学べる授業を行っている。	
				進んで学習に取り組んでいる。	成果	児童	70	98			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書など、読書好きになるような手立てを取っている。	取組	教師	90	78	児童が自分で読める本の冊数を考えて、目標を決め、その目標に向けて読書ができた。今後、学校での読書の時間の持ち方を検討し、個に応じた読書指導ができるようにする。	読書週間をつけるための手立てを教員間に周知徹底する。児童の興味のある本を図書室に入れ、読書への意欲をさらに高める。	
				1年間で、自分で設定した冊数以上本を読むことができた。	成果	児童	80	79			
お子さんは、おうち読書に取り組んでいますか。				満足度	保護者	80	54				
⑤	ICTの活用	ICTを活用した先進的な授業について、他校への積極的な視察と校内での研修会(視察報告など)を学期ごとに実施する。	ICTを活用した授業をしているか。	取組	教師	90	100	授業を分かりやすくするツールとしての使い方がなされていたといえる。	ICTの研修会で学んだことを生かし、授業で積極的に使っていく。		
			ICT機器活用により、授業に意欲的に取り組めたか。	成果	児童	80	93				
ゆたかな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす	あいさつ運動を実践している。	取組	教師	90	92	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを継続し、さらにより良い人間関係づくりを向上させていく。各学級で全ての活動を通して、言葉遣いの指導をしていく。話し方の実施により、徐々に元気よくあいさつをする児童が増えている。礼儀正しい言葉遣いに関して、ともに良い達成率となっており、全体的に意識が向上している。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを継続し、さらにより良い人間関係づくりを向上させていく。各学級で全ての活動を通して、言葉遣いの指導をしていく。話し方の実施により、徐々に元気よくあいさつをする児童が増えている。礼儀正しい言葉遣いに関して、ともに良い達成率となっており、全体的に意識が向上している。	
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつができています。	成果	児童	80	98			
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつができています。	満足度	保護者	80	90			
				学校・地域・家庭で、礼儀正しく、正しい言葉遣いができる子を育てている。	取組	教師	90	90			
				学校・地域・家庭で、礼儀正しく、正しい言葉遣いができています。	成果	児童	80	93			
				学校・地域・家庭で、礼儀正しく、正しい言葉遣いができています。	満足度	保護者	80	86			
				ソーシャルスキルトレーニングなどを実施し、子ども同士のよりよい関係づくりにつとめている。	取組	教師	90	100			
				友だちとの関係がよく、学校へ通うのが楽しいと感じている	成果	児童	90	94			
	学校は、ソーシャルスキルトレーニングを十分実施(月2回以上)し、より良い人間関係づくりに生かしている。	満足度	保護者	90	91						
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む	縦割り班活動、体験活動等を通して、自主性や協力し合う心、お互いを思いやる心を育てるための手立てを工夫する。	取組	教師	90	100	縦割り班活動や体験活動は、自主性や思いやり、認め合う心を育てるのに有効であった。	今後も、各行事の要として縦割り活動を取り入れていく。	
縦割り班活動、体験活動等を通して、周りの人に役立つことや人に喜ばれることができた。				成果	児童	80	98				
縦割り班活動、体験活動等は、児童が自主的に活動し、協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。				満足度	保護者	80	96				

⑧	人権意識の向上	一人一人がかげがえのない存在であることを、道徳の授業を中心に学校生活全般を通して育む	道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない態度を育てている。	取組	教師	90	100	学校での「絶対いじめをしない」という姿勢が、児童の心や意識を変えている。保護者側もそれを実感している。	各学級で人権に関する取組みを継続的に実施し、その内容を保護者に知らせていく。		
			相手のいやがることをしないよう、気をつけて生活をしている。	成果	児童	80	94				
			学校は、一人ひとりを大切にしている指導をしている。	満足度	保護者	80	89				
健やかな体	⑨	基礎体力の向上	体育の授業や細呂木タイム<週2回、マラソン、ドッジボール、キックボール、ダンス、縄跳びなど>において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る	体育の授業や細呂木タイムで、体力向上を図っている。	取組	教師	90	100	体力向上への取組みは、3者とも意識が高く、効果が出ていると考える。(昨年よりも指数が上がっている)	学年便りなどで、細呂木タイムでの取組みや様子を伝え、児童の体力向上についての保護者の関心を高める。	細呂木小学校のような規模だと、教員が全児童のことをわかっていない、いろいろな方面からその子に支援できる体制であることが、不登校ゼロにつながっていると思う。基礎体力にも力を入れていることが分かる。また、給食をいただいたが、大変温かくておいしい。子どものやさしさは、人との関わりからも生まれる。地域の方(年寄り)との関わりで、心身ともに健康な体の育成に努めてほしい。
			体育の授業や細呂木タイムで、自分の体力は向上した。	成果	児童	90	100				
			細呂木タイムは、児童の体力向上に有効である。	満足度	保護者	80	84				
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努める。	取組	教師	100	100	学校では、機会を設け子どもたちの心の把握に努めているが、悩みや問題の内容、児童の発達段階に応じて全て相談が持ち込まれることばかりではないと受け止め、相談活動を行う。	日頃から教師集団全体で児童の状況把握に努め、児童や保護者にチームで応じる。学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。必要に応じて、SCなど外部機関に入ってもらおう。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友達、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	成果	児童	100	88			
				学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	満足度	保護者	100	95			
	⑪	生活習慣(食育含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、給食週間などでの望ましい食習慣等)	日常的な健康習慣づくりの指導ができています。	取組	教師	90	100	日常的な健康習慣が身に付いている。	日常的な健康習慣作りの指導を今後も継続していく。	
				日常的な健康習慣づくりを意識して生活できています。	成果	児童	80	98			
				学校は、日常的な健康習慣づくりの指導が行き届いている。	満足度	保護者	80	86			
	開かれた学校・地域との連携	⑫	相談活動	学校(教職員)と児童、保護者、地域の人の間で気楽に相談できる関係を構築する。	児童、保護者、地域の人の間で気楽に相談できる関係を構築している。	取組	教師	90	100	日頃より、児童の観察やアンケートなどにより児童の聞き取りを行ってきたが、相談相手を教師と限定されると相談できなかった児童もいた。	今後もアンケートをもとにした面談を重視しながら、困っている時はだれかに相談するように働きかけを行っていく。また、SCの力も借りて相談体制を整えていく
				困ったことがあったら、先生に相談できる。	成果	児童	90	89			
				困ったことがあったら、先生に相談できる。	満足度	保護者	80	95			
⑬		積極的な情報発信	学校だより・学年通信・保健だより・図書だより(月1回以上発行)、ホームページ(即日更新)で、学校・児童の情報発信を積極的に行う。	学校だより・学年通信・保健だより・図書だよりを月1回以上発行し、学校・児童の情報発信を積極的に行っている。	取組	教師	90	100	学年通信をカラー印刷にし、情報発信を積極的に行った。また、学校だより・ホームページなどでも、学校の様子がわかり、保護者の満足度も高かった。	今後も、情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。より様子が分かるように、ホームページを充実し、各学年の様子が分かるようにする。	
				学校だより・学年通信・保健だより・図書だより(月1回以上発行)、ホームページ(即日更新)で、学校・児童の情報発信に目を通して	満足度	保護者	85	95			
⑭		情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣をつくり、指導する	学年に応じた、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導ができています	取組	教師	90	71	学年に応じたネット利用のルール作り(ノーマディアデーやノーマディアウィークの設定、利用時間の制限等)を教師間で話し合っていく。	外部講師による情報モラルの授業を今後も行う。	
				ネット利用(情報モラル含む)についての学習を通して、家庭生活でのルールづくり、習慣づくりができています	成果	児童	80	93			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりをしている。	満足度	保護者	80	79			
⑮		連携の質向上(家庭・地域・学校の連携)	校区内の各地域や外部関係機関、子ども園、他校(小中学校)との密接な情報交換と連携に努め、望ましい「家庭・地域・学校協議会の提言」を指針とし連携の質を高める	校区内の各地域や関係機関との密接な情報交換のもと、「家庭・地域・学校協議会からの提言」を長期休業中の児童の生活に生かしている。	取組	教師	90	100	本校が地域に根ざした学校であることが分かる。提言の中の、「読書・手伝い・地域での挨拶」など、継続できるよう大切にしたい。	夏休み・冬休みの反省を生かして、来年度以降、より健全な生活が送れるよう指導していく。	
				校区内の各地域や関係機関との密接な情報交換を基盤として、「家庭・地域・学校協議会からの提言」を長期休業中に取り組んでいる。	成果	児童	80	99			
				校区内の各地域や関係機関との密接な情報交換を土台に「家庭・地域・学校協議会からの提言」を長期休業中の児童の生活に生かしている。	満足度	保護者	80	80			